

みんな違って、みんないい？

初回イベントでアンケートを英訳した SCC メンバーが、このイベントのタイトルは国際理解 (International Understanding) だが、内容は多様性 (Diversity) なのだ、と感じたと言ったのが、続く 2 つのイベントの方向性を確信できた瞬間でした

ラボは多様なまちの人たちが集まる場でありたいと思っていましたが、様々な多様性を受け止めるためには想像力も覚悟も必要なのだと今回思い知りました。同時に、毎回手探りで企画する中でそのコミュニティを熟知している協力団体の専門性に助けられたことで、多様な社会を実現するためには、どちらか片方だけではなく、互いの関心と歩み寄りが必要なのだと感じました

「みんな違って、たいへんだ」

実はそんな側面もある多様性だからこそ、うかつに取り扱うのは危険でもあります。今回も未熟な私たちが掘り下げきれなかった部分が多く反省だらけです。でも対話イベント後に「もっと互いを知りたい、もっと能動的に関わりたい」という声があったことで企画して良かったとホッとしています。

そしてその声はこのまちの未来を照らす、やさしい光でもあると感じています